

# 「身体性のインクルージョン」

「条件の異なる身体が関わる時に何がおこるか?」

アリは触覚をどのように使って情報伝達をしているのか?例えばそんなまなざしを介護という人間に向けてみると...、見えてきたのは感覚や認知が異なる者どうしにつきあうときの、たいていは無自覚な知恵の数々だ...。(『介護するからだ』書評 伊藤亜紗より)

会話分析、ジェスチャーを研究する、人間行動学者の細馬宏通氏の認知症高齢者の身体性研究と美学と現代アートを専門とする伊藤亜紗氏による視覚障害者との対話を通して、視覚優位社会の中で「見る」ことそのものを問い直す、新しい身体論研究(『目の見えない人は世界をどう見ているのか(光文社新書)』)の交差する議論をみる。

平成 28 年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業「美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラムの構築と実施・評価」

● 群馬大学 × アーツ前橋  
「まえばし ▲ アートスクール計画」

定員  
100名

## 第1部 視覚障害の場合

伊藤 亜紗 (東京工業大学リベラルアーツ研究  
教育院/大学院環境・社会理工学院・准教授)

1979年東京都生まれ。東京工業大学リベラルアーツセンター研究教育院准教授。専門は美学、現代アート、身体論。もともと生物学者を目指していたが、大学三年次より文転。日本学術振興会特別研究員などを経て2013年より現職。研究のかたわら、アート作品の制作にもたずさわる。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社)、『ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体の解剖』(水声社)、参加作品に小林耕平(タ・イム・マ・シン)(国立近代美術館)など。



## 第2部：介護（ケア）の場合

細馬 宏通 (滋賀県立大学人間文化学部・教授)

1960年生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士：動物学)後、現在、滋賀県立大学人間文化学部教授。日常生活における声と身体動作の研究、視覚メディア史の研究を行っている。著書に『介護するからだ』(医学書院)『うたのしくみ』(びあ)、『ミッキーはなぜ口笛を吹くのか』(新潮選書)、『今日の「あまちゃん」から』(河出書房新社)、『絵はがきの時代』『浅草十二階』(青土社)など。



司会進行：茂木一司(群馬大学教育学部教授)  
住友文彦(アーツ前橋館長)

photo:https://www.flickr.com/photos/drzuko/7424765292/in/album-72157619911430265/ ©zuko.org

12月4日(日)  
13:00~15:30(受付12:30~)  
会場：シネマまえばし 前橋市千代田町 5-1-1  
(アーツ前橋と同じ建物の3F) 前橋プラザ元気 21・別館 3F

- 会場までのアクセス
- 【公共交通機関】
- JR前橋駅から徒歩10分
- 上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩5分
- 【自動車】
- 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

受講  
無料

事前申込制

氏名、メールアドレス、電話番号、職業・所属を書いて、メールまたは電話で群馬大学内「まえばしアートスクール計画」事務局までお申込ください。

email:gundaiart2015@gmail.com 電話:027-220-7353 [平日9:00-16:00]

※先着順。定員に達した場合には締切ります。

http://moka7887.p2.bindsite.jp/w1docs/pg123.html

主催：国立大学法人群馬大学 共催：前橋市

助成：平成28年度 文化庁大学を活用した文化芸術推進事業「美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラムの構築と実施・評価」

